

---

# 岐阜県立高山工業高等学校

学 校 長 浦 山 朋 征

学校住所 高山市千島町291番地 電話 0577-32-0418

---

1 会議の名称 平成30年度学校評議員による会議（第1回）

2 会議の構成 委 員 内 島 靖 夫 (株)飛驒印刷(代表取締役)  
小屋垣内 浩之 小屋垣内農園(自営)  
松 村 忠 典 (株)和井田製作所(総務部長)  
山 下 恵美子 山下提灯(自営)  
横 谷 政 恵 理容こいど(理容師) 欠席

(委員名は五十音順)

学校側 浦 山 朋 征 校長  
村 田 和 宏 教頭 (司会)  
北 原 和 弘 事務長  
岩 島 義 則 教務主任  
上垣内 忠 生徒指導主事 (記録)  
門 前 雅 人 進路指導部長  
室 谷 伸 治 工業部長

3 会議の目的 岐阜県立高山工業高等学校評議員会設置要綱に基づき、平成30年度の教育方針・重点及び学校課題を説明し、それについての幅広い意見・提言を受け本校教育の改善・充実に資するとともに、開かれた魅力ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 平成30年7月12日(木) 13:30~15:15 高山工業高等学校(校長室)  
委員4名と学校側7名が出席

5 会議の概要

(1) 授業参観 3年生各クラスの選択授業を参観していただいた。

(2) 学校長挨拶

①学校評議員の委嘱

②挨拶

(3) 委員自己紹介と授業参観のご感想・ご意見

委員1 全体的に生徒は授業に集中していたし、集中できるように教師が配慮している様子も感じられた。教材がわかりやすいと思った。反面、フレンドリー過ぎる授業や昼食直後で、集中できていない生徒が気になった。

- 委員 2 教師による違いが大きいと感じた。暑い中で集中するのは難しいことと思うが、教師が迫力のある授業をされている教室の生徒は集中していた。逆に、授業に集中できず寝ている生徒がいた。普段のことはわからないが、そのままにして授業を進めているのはどうかと思った。
- 委員 3 生徒から見て、信頼できる教師や好きな教師と、そうでない教師がいて当たり前。堂々と寝ている生徒は授業や教師に魅力がなく、面白くないのだろう。科目によっても教師によっても違いはあるが、目的意識を持たせたり、最低限身に付けるべき内容を示した授業が良いのではないか。
- 委員 4 以前の一時期とは違い、服装や態度は格段に良くなっている。反面、元気がないといわれるが、工業高校の実際の授業の様子をはじめて見たが、楽しかったし、生き生きとした生徒や教師の姿を見て微笑ましくも感じた。
- 学校側 いただいた感想を職員に伝え、今後の授業改善に努めたい。

#### (4) 本校の教育活動(現状と課題)について(学校から課題と重点の説明)

教 頭：①教育指導の重点について

資料に基づいて教育方針と教育指導の重点について概要を説明。

②マニフェストについて

資料に基づいてマニフェストのポイントを説明。ただし、詳細については各分掌からあらためて説明する。

③働き方改革の取組について

県教育委員会発行の資料に基づいて取組の概要と、本校の実情を説明。

各分掌長より、マニフェストおよび指導の重点と自己評価の資料に基づいて説明。

教 務 部：全教員による授業公開を実施して授業改善に努めている。また、全ての生徒がわかる授業を推進しており、ユニバーサルデザインをとり入れた授業を実践している。また、成績上位者だけでなく、下位者に対しても手厚い指導を行っており、外部の学力診断テスト結果から、入学時と3年次とを比較すると、本校入学後、顕著に学力伸長がみられることを具体的に説明。

進路指導部：進路関係行事の実施時期の適正化に加え、ガイダンス等にも新たな試みを実施している。各種適性検査の有効利用に向けた進路学習ファイルを活用するなどして、進路意識の向上を図っている。また、今年度の生徒の進路希望状況や求人状況についても説明。

生徒指導部：近年および昨年度の生徒指導関係の動向を報告。そうした現状を踏まえた本年度の重点目標と取組について説明。重点は、更なる規範意識の向上と、状況を判断し正しく行動できる自己指導力の育成、中でもコミュニケーション能力の育成について、昨年度から引き続き、力を入れている。

工 業 部：4つの学科が「魅力ある高山工業高校づくり」として、近年、あるいは今年度取り組んでいる指定事業について概要を説明。キーワードは「活力ある学校づくり」、「地域連携」、「知財教育」等で、地域の課題を主体的に解決する学習活動を進めている。

(5) 協議 「本校教育に対するご意見やご提言」

- 意見 1 少子化の中、入学希望者を増やすために色々な努力をされていることはよく知っている。通学が難しい遠方の女子生徒が工業高校への入学を希望しており、寮に入れなかと聞かれたことがある。女子生徒が寮に入ることはできないのか。
- 学校側 現在の寮は男子生徒が対象である。女子生徒を入寮させるには、寮自体の構造的な部分のほか、職員の勤務体制上も難しい。この件は、建築インテリア科で県外募集をしていることもあり、過日の学校活性化連絡協議会でも話題になった。本校のみで女子寮を新設、運営していくことは現実的には難しいため、寮以外の方法として学校後援会や同窓会の会員の皆さんに協力依頼をしたらどうかとのご提案をいただいた。早速、先日行われた同窓会総会の席上、校長より参加者に協力をお願いした。新たな下宿先の開拓と併せて、今後も引き続きお願いしていきたいと考えている。
- 意見 2 授業中集中できない生徒がいるのは、教師側にも原因がある。熱意のある、魅力的な授業に挑戦してほしい。
- 生徒募集については、学校の魅力を熱心に訴えても中学生や保護者にはなかなか伝わらない。そもそも定員割れは学校だけの問題ではない。学校の声を行政や地域に積極的に届けて、県や市などを交えて全体で対応すべき問題である。
- 意見 3 高山は、街として魅力がないわけではないと思うが、企業については魅力が少ない。従って地区外へ就職し、そのまま定着してしまう生徒が多いのも当然である。学校だけの問題ではなく行政の問題であり、また、地域の親の考え方の改革も必要であると思う。大学を出なければやりたい仕事ができないのか、高校卒業では夢は実現できないのかなどについて、正しい認識をされていない親が多いのではないかと思う。
- 意見 4 専門科の授業は楽しそうであり、実践的な内容であることがよくわかって魅力も感じた。しかし、自分の子は三人とも工業高校を選ばなかったし、親としても強く勧めたわけではなかった。結果的に三人とも高山を離れて生活しており、意見を述べる立場ではないが、工業高校は地元を支える人材の育成ということも念頭に実践的な教育され、努力されていることがよく分かった。今後も頑張っていたきたい。

6 会議のまとめ

学校評価アンケートにもご協力いただきたい。本日のご意見とともに今後の学校運営に生かしていく。

第2回は、卒業作品展当日の1月26日（土）に開催を予定している。